

# 持続可能性に配慮した調達コード改定案について (個別基準の追加以外)

2023年2月10日 第8回持続可能な調達ワーキンググループ

公益社団法人  
2025年日本国際博覧会協会  
企画局 持続可能性部



# ① 通報受付対応（グリーンパス・メカニズム）に関するもの（1/2）

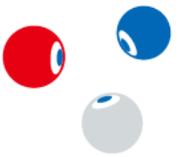
前回までの調達WGにおいて、**通報受付対応（グリーンパス・メカニズム）** に関して調達コードの記載を一部見直すべきとのご意見があったことを踏まえ、**共通基準及び担保方法について一部修正・追記**することとしたい。

	意見内容	対応案
1	調達コードの共通基準の「全般」のところに、サプライヤー等も苦情処理の体制を整備すべきという記載がもともとあったものを、担保方法のところに移すという案では、非常にわかりにくいと心配している。	<p>調達コードの共通基準「(1) 全般」の「<u>1.2 通報者に対する報復行為の禁止</u>」を「<u>1.2 通報者に対する報復行為の禁止及び通報受付対応の体制整備</u>」と修正し、<u>サプライヤー等は、法令違反や調達コード違反等の行為に関する通報をした者に対し、通報したことを理由として報復行為を行ってはならないこと、また、かかる通報を受け付けて対応する体制（グリーンパス・メカニズム）を整備するように努めるものとする</u>ことを明確にするよう修正。</p> <p>【資料8-6 p.6参照】</p>
2	サプライヤー等における苦情対応の体制整備に関しては、もともと共通基準の「(1)全般」の「1-2 通報者に対する報復行為の禁止」に記載されていたが、このところを「報復行為の禁止」ではなく「苦情処理メカニズムの設置・運用」などとして、調達コードの中に明確に入れるべきではないか。	
3	調達コードの「担保方法」は、博覧会協会や、サプライヤー、ライセンサー、パビリオン運営主体等が調達コードの遵守のためにすべきことを記載している部分であり、サプライチェーンも含めた「サプライヤー等」による苦情対応の体制整備をそのまま「担保方法」に持ってくるのは不自然。もともと共通基準の「1-2 通報者に対する報復行為の禁止」に記載のあったところには通報があった場合に対応する最低限の仕組みを設けることを残して記載を検討してもらいたい。	

# ① 通報受付対応（グリーンパス・メカニズム）に関するもの（2/2）

前回までの調達WGにおいて、**通報受付対応（グリーンパス・メカニズム）** に関して**調達コードの記載を一部見直すべき**とのご意見があったことを踏まえ、**共通基準及び担保方法について一部修正・追記**することとしたい。

	意見内容	対応案
4	「担保方法」にも、博覧会協会が苦情処理メカニズムを設置する以上、仕組みが十分機能するように、サプライヤー、ライセンシー、パビリオン運営主体等が苦情処理メカニズムに協力すること、あるいは、少なくとも自らそのようなメカニズムを構築することを記載しておくことは重要であり検討してもらいたい。	調達コードの「担保方法」の「(11) 通報受付対応（グリーンパス・メカニズム）」において、 <b>サプライヤー、ライセンシー又はパビリオン運営主体等は、博覧会協会による通報受付対応に協力して対応しなければならないことを追記。</b>  【資料8-6 p.17参照】
5	苦情対応の体制整備に関して追加した文言は「サプライヤー等は」となっており、担保方法における主語が一貫していないので、担保方法の他の主語に合わせた記載とすることを検討してほしい。	



## ②脱炭素に関するもの

脱炭素ワーキンググループにおける**カーボンニュートラルLPG**及び**航空機のオフセット**に関するご議論を踏まえ、調達コードの**共通基準のうち脱炭素に係るものについて一部追記**することとしたい。

	状況	対応案
カーボンニュートラルLPG		
1	<p>大阪・関西万博では基本的にパビリオンではガスを使用しない設計となっているが、店舗での調理等でどうしても使用したい場合には特別規則上LPガスを使用できることになっている。この際のガスの調達については、LPガスを参加者がそれぞれ調達することとなっている。</p> <p>参加者による会期中の会場内の燃料燃焼によるCO<sub>2</sub>排出は万博のScope1（直接排出）と整理しており、当該部分のカーボンニュートラルを目指すにあたっては対策が不可欠。</p>	<p>調達コードの共通基準「(2)環境」の「2.2 低炭素・脱炭素エネルギーの利用」において、<u>パビリオン運営主体等は、会場内においてLPガスを使用する場合には、カーボンニュートラル※なものを使用しなければならない</u>ことを追記。</p> <p>※クレジットによるオフセット、バイオ由来のものなど、燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量が実質0であるもの。 【資料8-6 p.7参照】</p>
航空機のオフセット		
2	<p>大阪・関西万博においてはGHG排出のバウンダリとして、本来企業の運用するGHGプロトコルには含まれない来場者等の排出を算入することを定義。特に海外からの渡航者が航空機を利用することによる排出量は全量を算入することとした。この結果排出量を算出すると、万博全体の排出量の約7割が来場者由来の排出となっている。</p> <p>航空業界へのヒアリングの結果、各社にてSAF（持続可能な航空燃料：Sustainable Aviation Fuel）の導入や渡航分のGHGをオフセットする追加メニュー等の用意をしているが、利用率は非常に低いのが現状であり、このままでは来場者由来の排出量の大部分の削減対策が進まないことになる。</p>	<p>調達コードの共通基準「(2)環境」の「2.4 バリューチェーン全体を通じた温室効果ガスの低減に寄与する原材料等の利用」において、<u>調達物品等の航空機輸送にかかる温室効果ガスの排出量や、サプライヤー等関係者の航空機移動にかかる温室効果ガスの排出量をオフセットすることが推奨される</u>ことを追記。 【資料8-6 p.8参照】</p>

## カーボンニュートラルLPG



### 状況

- 大阪関西万博では基本的にパビリオンではガスを使用しない設計となっているが、店舗での調理等でどうしても使用したい場合には特別規則上LPGを使用できることになっている。この際のガスの調達についてはLPGを参加者がそれぞれ調達することとなっている。
- 参加者による会期中の会場内の燃料燃焼によるCO<sub>2</sub>排出は万博のScope1（直接排出）と整理しており、当該部分のカーボンニュートラルを目指すにあたっては対策が不可欠。

### 対応

- 参加者がLPG調達の際はカーボンニュートラル※なものを調達することを調達コードへ追加するよう2月10日開催予定の調達WGでご議論いただき、意見募集等を経て今年春をめどに決定いただく。

※クレジットによるオフセット、バイオ由来のものなど、燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量が実質0であるもの。



4

## 航空機のオフセット



### 状況

- 大阪関西万博においてはGHG排出のバウンダリとして、本来企業の運用するGHGプロトコルには含まれない来場者等の排出を算入することを定義。特に海外からの渡航者が航空機を利用することによる排出量は全量を算入することとした。
- この結果排出量を算出すると、万博全体の排出量の約7割が来場者由来の排出となっている。
- 航空業界へのヒアリングの結果、各社にてSAF（持続可能な航空燃料：Sustainable Aviation Fuel）の導入や渡航分のGHGをオフセットする追加メニュー等の用意をしているが、利用率は非常に低いのが現状であり、このままでは来場者由来の排出量の大部分の削減対策が進まないことになる。

### 対応

- 来場者や参加者、物流において航空券やツアーを手配する際にオフセットクレジットの購入を推奨することをLPGと同様に調達コードに追加するようご議論いただく。



# 持続可能性に配慮した調達コード改定に向けたスケジュール（案）

- 2月10日 第8回調達WG
- ・意見募集に向けた「持続可能性に配慮した調達コード（第2版）（案）」とりまとめ
- 3月3日 第7回持続可能性有識者委員会
- 以降 意見募集
- ・博覧会協会HPにて公開
- 5～6月頃 第9回調達WG
- ・意見募集結果を踏まえた「持続可能性に配慮した調達コード（第2版）（最終案）」とりまとめ
- 以降 第8回持続可能性有識者委員会
- 7月頃 持続可能性に配慮した調達コード（第2版）公表